

学校関係者評価報告書

(令和4年度)

富山市立富山ガラス造形研究所

令和5年3月

富山市立富山ガラス造形研究所 学校評価委員会は、令和4年度 学校自己評価報告書に基づき、学校関係者評価を行いましたので、その結果を以下の通り報告いたします。

1 令和4年度 富山市立富山ガラス造形研究所 学校関係者評価委員会

日 時 令和5年3月20日（月）14時

場 所 富山ガラス造形研究所

出席者 学校関係者評価委員会委員 5名

今淵 純子 （富山大学芸術文化学部准教授）

清水 裕樹 （富山市企画管理部次長）

作道 僚子 （ガラス工芸作家）

畠山 耕造 （本校非常勤講師）

古澤 富美男 （（一財）富山市ガラス工芸センター専務理事）

（五十音順）

事務局 6名

恒川 哲二 富山ガラス造形研究所 所長

本郷 仁 富山ガラス造形研究所 主任教授

中神 牧子 富山ガラス造形研究所 主任教授

松藤 孝一 富山ガラス造形研究所 准教授

佐伯 緑子 富山ガラス造形研究所 事務長

大野 裕美 富山ガラス造形研究所 副主幹

2 基準ごとの学校関係者評価、意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

【1-1】 理念・目的・育成人材像は定められているか

【1-2】 学校の特色はなにか

【1-3】 学校の将来構想を抱いているか

- 教育理念や学校の特色については、日本のガラス教育機関の中でもトップクラスに位置する。ただ、将来構想については、景気低迷や急激な人口減少、さらにコロナ禍やウクライナ侵攻などの外部要因によって実現が危ぶまれる。富山市では「公共施設マネジメントアクションプラン」に基づいて、長期的プランに基づいて公共施設の統廃合に取り組んでいるが、研究所でもこうした社会の変動に対して独自の対策をたてるべきではないか。
- 富山市のガラスのまちづくりをベースにしながら、社会に向けて認知してもらえるようにしていく施策は必要なのではないか。
- 少子化などの要因によって、造形科の志願者数が下がっていくのは仕方がないので、研究科を充実させていくのが良い。
- ガラスを専門に学びたいと思うのは、ある程度将来について見えてきた人ではないかと思うので、専門性を強めて、研究科に力を入れるのが良いと思う。

基準2 学校運営

【2-1】 運営方針は定められているか

【2-2】 事業計画は定められているか

【2-3】 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

【2-4】 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

【2-5】 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

- 学校運営は、概ね適正に行われていると考えられる。
- 外国人教員の賃金について、国内法で対応するのは限界があるのではないかと。

基準3 教育活動

- 【3-1】各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか
- 【3-2】各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか
- 【3-3】カリキュラムは体系的に編成されているか
- 【3-4】学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか
- 【3-5】授業評価の実施・評価体制はあるか
- 【3-6】育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 【3-7】成績評価・単位認定の基準は明確になっているか
- 【3-8】地域社会との連携や地域性を活かした教育活動が行われているか

- 教育活動は、概ね適正に行われていると考えられる。
- 先年、チェコの伝統的なグランヴィールの技術者が招かれていたが、現代ガラスの造形表現とは傾向が違うのではないかと思われる。
- ウィズコロナ、ポストコロナに向けての対応が必要となる。
- 富山大学では、シラバスについて、委員会委員がチェックし、授業評価についてもアンケートをこまめにとり、教員によるフィードバックを公表している。
- 富山大学との連携を進めることは、とても良いと思う。他の分野の方との交流は、将来への助けにもなり、制作への励みにもなる。
- 業界のニーズを捉え、自分の制作とのギャップを埋めるのが課題ではないか。
- 課題に追われている学生がいるので、学生のやる気をいかに引き出すか、また、課題の進め方、実習時間のあり方について検討する余地はある。

基準4 教育成果

- 【4-1】就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られている
- 【4-2】退学率の低減が図られているか
- 【4-3】卒業生・在学生の社会的な活躍、評価を把握しているか

- 富山の気候による冬季うつ等、精神面のサポートを続ける必要がある。

- 卒業生・在学生の社会的な活躍、評価は、把握されている。
- 卒業生との情報共有を図ることが大切である。

基準5 学生支援

- 【5-1】 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 【5-2】 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 【5-3】 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
- 【5-4】 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
- 【5-5】 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
- 【5-6】 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか
- 【5-7】 保護者と適切に連携しているか
- 【5-8】 卒業生への支援体制はあるか
- 【5-9】 留学支援や海外との提携による国際教育交流の体制はあるか

- 学生支援は、概ね有効に機能していると考えられる。
- 卒業生への支援体制について、情報が共有できる催しがあると良い。

基準6 教育環境

- 【6-1】 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 【6-2】 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 【6-4】 防災に対する体制は整備されているか

- 教育環境は、概ね適正に整備されていると考えられる。
- 現在は、適正に整備・運営されているが、今後、少子化に伴う管理経費の減少が懸念される。

基準7 学生の募集と受け入れ

- 【7-1】 学生募集活動は、適正に行われているか
- 【7-2】 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

【7-3】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

【7-4】 学納金は妥当なものとなっているか

- 学生の募集と受け入れは、概ね適正に行われていると考えられる。
- 学生募集活動については、適正に行われているが、まだまだ認知されていない部分があるため、広報活動の検討が必要である。

基準8 法令等の遵守

【8-1】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

【8-2】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

【8-3】 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

【8-4】 自己点検・自己評価結果の公開をしているか

- 法令、設置基準等の遵守と適正な運営は、概ね適正に行われている。

基準9 社会貢献

【9-1】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

【9-2】 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

- 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献、学生のボランティア活動の支援は、概ね適切に行われている。